

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	平野区
学校名	平野小学校
学校長名	村田 典子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・平野小学校では、第6学年 119名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 国語・算数の平均正答率(%)は、  
国語【大阪市+1.0、全国-0.8】算数【大阪市-3.0、全国-3.0】であった。  
国語・算数ともに全国平均を下回る結果となった。
- 国語・算数の平均無解答率(%)は、  
国語【大阪市+0.2、全国-0.3】算数【大阪市-0.5、全国-0.9】という結果になった。
- 児童質問調査「学習した内容について、わかった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか」の設問に対する最も肯定的な回答は、全国平均と比べ、4.5ポイント高かったことから、授業で学んだ内容の振り返り、次の学習につなげることが出来ていると感じる児童が多い。
- 今年度の結果を受け、学力向上の取組を継続するとともに、基礎・基本のさらなる定着、読解力・思考力・表現力の育成を図る取組を進める必要がある。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

- [国語]
  - 「書くこと」では、平均正答率が70.1%で大阪市平均・全国平均を上回る結果となった。
  - 「読むこと」では、平均正答率が59.7%で大阪市平均・全国平均を大きく上回る結果となった。
  - 「話すこと」では、平均正答率が62.0%で大阪市平均・全国平均を下回る結果となった。
  - 「我が国の言語文化に関する事項」では、平均正答率が76.9%で大阪市平均・全国平均を大きく下回る結果となった。
  - 学びの礎となる「知識・技能」「話すこと・聞くことの力」の定着を図る指導の工夫が必要である。
- [算数]
  - 全ての領域において、大阪市平均・全国平均を下回る結果となった。
  - 「変化と関係」の領域では平均正答率が54.6%で大阪市平均・全国平均を下回る結果となった。
  - 「データの活用」の領域では平均正答率が42.9%で大阪市平均・全国平均を大きく下回る結果となった。
  - 「思考・判断・表現」の観点の設問で平均正答率が全国平均を上回るものが複数あった。
  - 「知識・技能」の定着を図った上で、主体的に深く思考する力の育成を図る必要がある。

質問調査より

- 自己肯定感や満足感に関する設問において肯定的な回答をする児童の割合が全国平均を上回った。  
「自分にはよいところがあると思いますか92.2%【全国+5.3】」  
「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。94.0%【全国+1.8】」  
「先生は間違えたところや理解していないところについて分かるまで教えてくれていると思いますか。89.6%【全国+2.2%】」
- 学習面・健康面に関する設問において肯定的な回答をする児童の割合が全国平均を大きく上回った。  
「分からぬことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。86.9%【全国+6.5%】」  
「健康にすごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか。87.8%【全国+5.2%】」

## 今後の取組(アクションプラン)

- 国語科では、読解力の向上を図るために、様々な形式の文章について、中心となる語や文を見つけたり必要な情報をを見つけたりすることを中心に行き、「読むこと」に関する力の育成を進めていく。学校図書館の活用を進め、児童にとって本がより身近な存在になるように読書習慣の定着に取り組む。
- 算数科では、「思考・判断・表現」の力の育成を図る。授業の中で、児童自らが日常の事象の中から問題を見出す・日常生活や社会の事象を数理的に捉える・情報を見出し正しく判断する・解答にいたるまでの過程で自分の考えを数学的表現を用いて記述するといった数学的活動を意識的に設定する。
- 健康教育を推進し、児童や保護者の健康意識の向上を図る。児童が、睡眠・食事・運動の重要性を理解して生活に取り入れができるよう保護者への啓発活動も続けていく。
- 放課後学習(平子屋)や朝学習、宿題や自主学習等で様々な問題に取り組む機会を継続して設ける。
- 今後も人権教育の推進を通して、学校・家庭・地域が連携しながら、児童の自尊感情や自己肯定感をさらに高める教育を推進していく。

